

CDP2026サプライヤーエンゲージメン ト評価スコアリングイントロダクショ ン

CDPコーポレート完全版質問書スコアリング基準 – 気候変

改訂履歴

バージョン番号	発行日	改訂内容の概要
1.0	2026年6月12日	CDP2026サプライヤーエンゲージメント評価スコア リングイントロダクションの公開

目次

Introduction	4
Principles of the CDP Supply Chain Program’s Supplier Engagement Assessment.....	4
Organizations included in the Supplier Engagement Assessment.....	4
Other scoring resources.....	4
Approach to Scoring of the Supplier Engagement Assessment	5
Calculation of a final SEA score	5
Scoring approaches	7
Best row scoring.....	7
Scoring routes	8
Cross-checking	9
Assessing an integrated questionnaire	9
Summary of Supplier Engagement Assessment scoring per scoring category	11
Risks Management Processes	11
Governance and Business Strategy	12
Supplier Engagement	13
Scope 3 Emissions.....	15
Targets.....	16
Score Appeals.....	17
Disclaimer Surrounding Scores	17
Feedback and Support.....	18
Frequently Asked Questions (FAQs)	19

イントロダクション

CDPサプライチェーンプログラムのサプライヤーエンゲージメント評価の原則

購買組織・企業はサプライチェーンにおいて重要な環境変化をもたらすことのできる可能性があります。サプライヤーとのエンゲージメントの取り組みを評価し、ベストプラクティスを収集するシステムを構築することによって、CDPは購買組織・企業のエンゲージメントの動きを強化し、全世界のサプライチェーンにおける排出量に関する取り組みを加速させることを目指しています。サプライヤーエンゲージメント評価（SEA - 旧称はSER）では、これを次の2つの方法で達成することを目指しています。

1. サプライヤーエンゲージメントについて期待するベストプラクティスを、評価基準を使って明確にすることです。購買プロセスを見直し、購買の際に環境情報を統合するための戦略を策定するという膨大な作業は非常に困難である可能性があり、多くの企業は行動の基盤となるベストプラクティスを特定することに苦労しています。「サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準」のガイダンスに従い、企業はベストプラクティスに向かって進むことができます。
2. サプライヤーエンゲージメントにおけるリーダーを評価し、表彰することです。CDPのこれまでの経験は、企業は、自社の行動を評価される機会が与えられたときにパフォーマンスが向上することを示しています。CDPは、企業のアクションと経営慣行の継続的な改善を支援するために、毎年公開されるSEAリーダーボードなどを通じて、優れた業績を評価し、表彰します。

サプライヤーエンゲージメント評価の対象企業

CDP2026コーポレート完全版質問書に回答した企業が、サプライヤーエンゲージメント評価の対象となります。ただし、規定された期日までに回答を提出していなければなりません。2026年にSME版質問書に回答した企業は、サプライヤーエンゲージメント評価を受けることはできません。

その他スコアリング関連資料

本書は、CDP2026サプライヤーエンゲージメント評価スコアリング基準と併せてご活用ください。この資料は、CDPウェブサイトの「[情報開示の方法](#)」ページでご覧いただけます。その他、CDP2026コーポレート完全版質問書スコアリング基準、CDP2026コーポレート完全版質問書（気候変動に関する質問）およびCDP2026コーポレート完全版質問書報告ガイダンス（気候変動に関するガイダンス）も併せてご活用ください。報告ガイダンスでは、質問書に回答する際に対象となる要素について説明しています。スコアリング基準は、回答組織がこのガイダンスに沿って回答データを提供することを前提に機能するため、報告ガイダンスに記載された指示に従ってデータを報告することが重要です。これらの関連資料は、CDPウェブサイトの「[情報開示の方法](#)」ページから、[CDPポータル](#)へのリンクを使ってご覧いただけます。CDPポータルでは、これらの資料をPDF形式でダウンロードすることも可能です。

サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリングのアップロ ーチ

サプライヤーエンゲージメント評価は、CDPコーポレート完全版質問書の気候変動に関する5つの主要領域（ガバナンスと事業戦略、目標、排出量の報告（スコープ3）、リスク管理プロセス、サプライヤーエンゲージメント）の質問への回答に基づいて評価が行われます。具体的には、ガバナンス、目標、事業戦略、依存、インパクト、リスクおよび機会のプロセス、スコープ3排出量、スコープ3排出量（サプライヤーとのエンゲージメント）に関する質問となります。フォレストやウォーターに関する質問、サプライチェーン追加質問（気候変動／フォレスト／水セキュリティ）への回答内容は、評価の対象にはなりません。

最終スコアの配分

Dより上のスコアを得るためには、サプライヤーとエンゲージメントしていることを回答しなければなりません（詳細については、スコープ3排出量：サプライヤーとのエンゲージメントをご覧ください）。

質問書内のすべてのスコアリング対象の質問は、1つのスコアリングカテゴリーに割り当てられます。各カテゴリーのウェイト（重み付け）は、全体のスコアにおけるセクターの相対的な重要性を反映しています。

ウェイトは、スコアリングカテゴリーごとのスコアを次のように計算することによって適用されます：得点/配点* 100。これらの割合ベースのスコアは、カテゴリーのウェイトに対して達成されたポイントの割合を計算することによって、レベルごとのカテゴリースコアに変換されます：カテゴリーのウェイト (%) / 100 * 総合スコア (%)。各レベルのカテゴリースコアは合計され、その後、各レベルの最終的な総合スコアが計算されます。

最終的なSEAスコアは、質問書全体を通じて採点されたポイントの総合的なパーセンテージによって決定され、各カテゴリーは以下のように全体のスコアの一部として重み付けされます。

スコアリングカテゴリー	サプライヤーエンゲージメント評価におけるウェイト
リスク管理プロセス	15%
ガバナンスと事業戦略	15%
サプライヤーエンゲージメント	35%
スコープ3排出量（検証を含む）	20%
目標	15%

表1 - SEAスコアリングカテゴリー別ウェイト

最終的なSEAスコアの算出方法

ウェイトが適用された後の最終的なパーセンテージによって「A」から「D-」までのスコアが決定され、最終スコアとして回答組織に割り当てられます。最終的なパーセンテージは、下記の閾値に従って、サプライチェーンエンゲージメント最終評価（SEAスコア）に換算されます。

CDPはスコアレベル間の移行に必要な閾値を暫定的に設定し、スコアリング期間中に、スコアレベル間の回答の分布が回答の現在の進捗レベルを代表するよう見直します。CDPは、スコアリリース前のいかなる時点においても、これらの閾値を調整する権利を有します。

サプライヤーエンゲージメント最終評価（SEAスコア）	閾値（しきいち）
A	76% - 100%
A-	66% - 75%
B	56% - 65%
B-	41% - 55%
C	26% - 40%
C-	16% - 25%
D	9% - 15%
D-	1% - 8%
F	0%

表2 - 各環境課題分野に対するCDPスコアレベルに適用される暫定的なスコアリング閾値。ここに示された閾値は、2025年の情報開示サイクルで公開されたスコアを計算するために適用されました。

サプライヤーエンゲージメント評価で最高評価を得るためには、顧客企業またはキャピタルマーケット署名機関からの回答要請に対して、回答内容を一般に公開する必要があります。

主なセクションのスコアリング基準については、関連する質問内容と、根拠、採点基準の概要と共に以下に概説しています。CDPウェブサイトの[情報開示の方法](#)ページに、「CDP2026サプライヤーエンゲージメント評価（SEA）スコアリング基準」文書があり、採点基準の詳細や各質問の配点を掲載しています。

2026年のSEAスコアリング基準にはほとんど変更はありませんが、質問4.5に軽微な変更が加えられ、質問7.53.1および7.53.2がより明確化されましたが、スコアリングの意図に変更はありません。

無回答の場合、当該の質問または一連の質問に与えられる最高ポイントのうち、得られるスコアは「0」ポイントになります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問における通常の配点の最高ポイントよりも大きい配点に対して得られるスコアが「0」ポイントになることがあります。これらの重要なデータポイントは、スコアリング基準の特定のルート（「非開示ルート」と表示）で強調されています。

スコアリングのアプローチ

CDPコーポレート完全版質問書には複数のルートが含まれているため、すべての回答組織に同じ質問が表示されるわけではありません。質問ルートの選択により、表示される質問数が変わることがあり、それに応じてスコアの配点も変わります。多くの場合、「はい」を選択した組織の方が、「いいえ」を選択した組織よりも、より大きい配点になります。このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。具体的には、得点として取得したポイント数を、選択された質問ルートに基づき取得可能な総ポイント数で割って計算した結果に基づき、最終スコアが付与されます。自組織に関連しないために質問数が少ない場合でも、そのことがスコアリングにおいて不利になることはありません。

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答組織は回答を準備する際にスコアリング基準を詳しく確認して、得点の割り当て方法を理解することをお勧めします。

いくつかの質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で得点可能な最高ポイントを上限として、ポイントまたはその一部が累積して付与されます。その他の質問では、ポイントを獲得するには、求められるすべてのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりすると、その質問の得点は0ポイントとなります。原則として、別途明記されていない限り、「コメント」欄はスコアリング対象とはなりません。

表形式で複数の行の回答が求められるようなケースにおいては、いくつかのスコアリングアプローチがあります。すべての回答欄に記入されていないと得点とならない場合もありますが、最高スコアとなる特定の行の回答のみが採点される場合もあります。

最も高得点となる回答を1行だけ対象とするスコアリング（ベスト・ロウ・スコアリング）

組織の回答行のうち、1行のデータのみがスコアリング対象となる場合があります。ベスト・ロウ・スコアリングは、回答が不完全な場合や、記載されたすべての内容が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して総合的な情報を提供することを可能にします。そのため、ベスト・ロウ・スコアリングは通常、行動、プロセス、または目標の1つの詳細な記述で十分に評価できる質問で使用されます。

ベスト・ロウ・スコアリングのアプローチは、採点基準で「1行が採点されます」と示されます。これらの質問では、すべてのスコアレベルで最高のスコアを獲得できる行に対して得点が付与されます。

ベスト・ロウ・スコアリングは、サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準では、2つの質問に適用されています（質問2.2.2と5.11.7）。

高得点となる回答を複数行採点するスコアリング

回答が記入された行のうち、基準を満たすために複数の行をスコアリング対象として考慮する必要がある場合があります。ベスト・ロウ・スコアリングと同様に、このアプローチにより回答が不完全な場合や、記載されたすべての内容が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して総合的な情報を提供することを可能にします。さらに、複数行をスコアリングするアプローチには、必要に応じて、自社の事業活動について個別に情報を報告できる柔軟性も組織に与えられます。そのため、必要な詳細な情報を個別に開示する必要がある場合に適用されます。

高得点となる回答を複数行採点するアプローチが該当する場合は、採点基準において「複数行が採点されます」と示されます。これらの質問では、すべてのスコアレベルで最高のスコアを獲得できる行の組み合わせに対して得点が付与されます。

高得点となる回答を複数行採点するアプローチは、サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準では、1か所のみ、質問4.5.1に適用されています。

最も高得点となる質問だけが対象のスコアリング（ベスト・クエスチョン・スコアリング）

サプライヤーエンゲージメント評価では、1か所のみ、2つの質問のうち1つの質問のスコアだけが総合スコアに反映されます。質問7.53.1と質問7.53.2では、排出量の総量目標（7.53.1）および原単位目標（7.53.2）について回答を求められ、2つの質問のうち得点が高い採点結果のみが総合スコアに反映されることになります。これは、スコアリング基準に明示されています。

スコアリングルート

質問の採点基準が個別のスコアリングルートに編成される場合があります。これらのルートでは、回答内容およびその回答に関連する後続のデータポイントに応じて、組織がどのようにスコアリングされるかの採点方法を詳細に説明しています。たとえば、組織が質問に対して「はい」または「いいえ」と回答した場合、異なるスコアリングルートが適用される場合があります。環境課題が集約された質問では、質問が特定の環境課題分野に対してのみ回答される場合、スコアリングルートを使用して各環境課題がどのように扱われるかを確認することもできます。

スコアリング基準では、組織が採点基準を満たすために選べるすべてのルートを示すことを目指しています。しかし、スコアリング基準でルートが明示的に定義されていない方法で情報を開示した場合、ポイントを失うことがあります。そのような場合、その質問レベルで獲得可能な最大ポイントに基づき、失う可能性のある最大ポイントが決まります（非開示ルートでの配点を除く）。

最終スコアの計算時に開示内容における大きなギャップが考慮されるように、スコアリング基準では、異なる非公開ルートが設けられています。これらのルートは、主要なデータポイントに対して情報開示を促進する観点から、スコアリング基準内で配点のバランスを取るために利用され、スコアリング基準内において「非開示ルート」と明示されます。

他の質問との照合

全体を通じて、採点基準は関連する他の質問における組織のスコアまたは回答を参照することがあります。場合によっては、ある質問でポイントを獲得することが、別の質問でポイントを獲得するための前提条件となることがあります。また、ある質問でポイントを獲得すると、別の質問でもポイントを獲得できる場合があります。このように、他の質問を参照することは、組織の回答の一貫性を確保するためのスコアリングメカニズムとして使用されます。

なお、サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準では、CDP2026コーポレート完全版質問書のスコアリング基準で付与されるポイントを参照することもあります。これらのポイントがどのように付与されるかについて詳しくは、CDPウェブサイトの「情報開示の方法」ページから、[CDPポータル](#)にアクセスし、CDP2026コーポレート完全版質問書のスコアリング基準をご覧ください。

詳細の記述：「その他、具体的にお答えください（Other, please specify）」

多くの質問では、回答組織が「その他、具体的にお答えください」を選択して詳細を記述できるようになっています。CDPでは、これらの欄に対する自動検査を実行し、回答の有効性を確認します。これらの欄に以下の文字を入力すると、空白セルとして扱われます。

無効な文字				
.	,	:	;	“
'	`	`	°	,
;	-	-	-	-
—	—	—	/	
~	*	—	\	—
?	…	(	)	[
]	{	}	<	>
±	≤	≥		

集約された質問書のスコアリング

CDPコーポレート完全版質問書を通じて、組織は複数の環境課題に関するデータを一度に提供することができ、より包括的でバランスの取れた報告が促進されます。

組織は現在、1つの情報開示の中で複数の環境課題に関するデータを提供できるようになりましたが、2026年においては、気候変動課題分野のみがサプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング対象となります

。複数の環境課題に関するデータを要求する質問におけるデータの開示および採点方法は、各質問の構造と要求されるデータによって異なります。

環境課題が集約されたモジュール内の多くの質問では、組織が各環境課題について別々の行にデータを開示することが求められます。2026年のサプライヤーエンゲージメント評価では、「気候変動」行に提供されたデータのみが評価され、スコアリング対象となります。

一部の質問では、組織は定義された列に関連する環境課題を選択して、各環境課題分野に関連するデータ行を指定する必要があります。ここでは、定義された列で「気候変動」が関連するものとして選択された行のみがスコアリング対象となります。組織がいずれかの行の列で「気候変動」を選択しなかった場合、その回答はSEAスコアで考慮されず、質問に対して情報を開示しなかったものとしてペナルティを受ける可能性があります。

環境課題が集約されたモジュール内のその他の質問では、提供されたすべてのデータが、情報開示されているすべての環境課題分野について評価されます。これらは、組織の回答がすべての環境課題分野で一貫していると見込まれる質問であり、複数の課題分野に同時に報告することができるため、報告負担が軽減されます。これらの質問では、提供されたすべての内容が、「気候変動」の環境課題分野の一部としてサプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング対象になります。

場合によっては、複数の環境課題分野を集約した質問が組織に提示されることがあります。ただし、各環境課題に対するルートによって、その質問が一部の環境課題にのみ適用されます。そのような質問では、関連するすべての環境課題分野の行またはドロップダウンの選択肢が引き続き表示されますが、ロックされていて、組織の回答にカウントされない場合があります。これは、特定の活動が行われる環境課題の各分野について追加の詳細の提供を求めるフォローアップの質問でよく見られます。採点基準では、このような質問における気候変動への配点方法が、基準内の特定のルート（「該当しないルート」と表示）を使用しているか、スコアレベルのポイントを獲得するために適切な気候変動を報告することを要求する適格基準を使用しているかを明確にしています。

サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリングの概要（スコアリングカテゴリー別）

リスク管理プロセス

質問：1.24、2.2、2.2.1、2.2.2

- 1.24 貴組織はバリューチェーンをマッピングしていますか。
- 2.2 貴組織には、環境への依存やインパクトを特定、評価、管理するプロセスがありますか。
- 2.2.1 貴組織には、環境リスクや機会を特定、評価、管理するプロセスがありますか。
- 2.2.2 環境への依存、インパクト、リスク、機会を特定、評価、管理する貴組織のプロセスの詳細を回答してください。

背景・根拠：

サプライヤーエンゲージメントの主要な要素は、環境リスクを特定、評価、管理するプロセスを実施しているとともに、組織のバリューチェーンをマッピングすることです。自組織のサプライチェーンにおける気候変動管理については、このプロセスでバリューチェーンの上流を対象範囲に含めることも重要です。

スコアリング基準の概要：

バリューチェーンマッピング

自組織のバリューチェーンをマッピング済みまたは現在マッピング中の組織には、満点が与えられます。今後2年以内にマッピングの予定がある場合は、部分点が付与されます。マッピングの予定がない場合は、ポイントは付与されません。

依存とインパクトのプロセス

組織が環境への依存および／またはインパクトを特定、評価、管理するプロセスを既に実施している場合は、満点が与えられます。今後2年以内にプロセスを開発する予定がある場合は、部分点が付与されます。プロセス開発の予定がない場合は、ポイントは付与されません。

リスクのプロセス

組織が環境へのリスクと機会の両方を特定、評価、管理するプロセスを既に実施している場合は、満点が与えられます。リスクのみまたは機会のみの場合は、部分点が付与されます。今後2年以内にこれら进行评估する予定がある場合も、部分点が付与されます。ここで得点を得ることは、これらの質問に完全な情報を記入しようという動機にもなります。つまり、リスクを特定、評価、管理するプロセスのスコアリングは、バリューチェーン上流を対象範囲に含めることに加え、実施されているプロセスに関して可能な限り完全な情報を開示する動機付けになります。

ガバナンスと事業戦略

質問：4.5、4.5.1、5.2

- 4.5 目標達成を含め、環境課題の管理に対して金銭的インセンティブを提供していますか。
- 4.5.1 環境課題の管理に対して提供される金銭的インセンティブについて具体的にお答えください（ただし個人の名前は含めないでください）。
- 5.2 貴組織の戦略には気候移行計画が含まれていますか。

背景・根拠：

企業が従業員にサプライヤーとのエンゲージメントに対して金銭的インセンティブを提供しているかどうかは、サプライチェーンにおける気候変動管理の重要性をどのように位置づけているかの1つの指標です。

スコアリング基準の概要：

インセンティブ

質問4.5.1は金銭的インセンティブのみに焦点を当てています。気候変動に関するサプライヤーとのエンゲージメントに関連した金銭的インセンティブの詳細報告に対して、ポイントが付与されます。金銭的インセンティブの報告に対しては満点が、以下の基準に従って付与されます。

- バイヤー／購入者が気候変動管理についてのインセンティブを受ける対象である
- 最高調達責任者（CPO）、最高財務責任者（CFO）、調達マネージャーが、気候変動管理についてのインセンティブを受ける対象である
- インセンティブ提供の基準として、サプライチェーンエンゲージメントに含まれる環境評価基準、および／またはサプライヤーの環境要件への遵守を取り入れている

移行計画

1.5°Cシナリオに沿った移行計画がすでに公開されており、進捗状況を把握するためのフィードバックメカニズムが実施されている、または、これを組織に導入する計画がある場合は、満点が与えられます。

CDP2026コーポレート完全版質問書でのマネジメントレベルの採点基準をすべて満たす移行計画には、満点が与えられます。

サプライヤーエンゲージメント

質問：5.11、5.11.1、5.11.2、5.11.5、5.11.6、5.11.7

- 5.11 環境課題について、貴組織のバリューチェーンと協働していますか。
- 5.11.1 貴組織は、サプライヤーを環境への依存および/またはインパクトによって評価および分類していますか。
- 5.11.2 貴組織は、環境課題について協働する上で、どのサプライヤーを優先していますか。
- 5.11.5 貴組織のサプライヤーは、貴組織の購買プロセスの一環として、環境関連の要求事項を満たす必要がありますか。
- 5.11.6 貴組織の購買プロセスの一環としてサプライヤーが満たす必要がある環境関連の要求事項の詳細と、遵守のために実施する措置を具体的にお答えください。
- 5.11.7 貴組織の環境課題に関するサプライヤーエンゲージメントの詳細を記入してください。

背景・根拠：

これらの質問を通して、企業はより深くサプライヤーとのエンゲージメント戦略の完全性と影響を示すことができます。

スコアリング基準の概要：

バリューチェーンエンゲージメント

重要な点は、Dより上のスコアを受けるためには、企業は5.11でサプライヤーと協働していると示さなければならないことです。気候変動に関してサプライヤーと協働している場合、ポイントが付与されます。

サプライヤーの評価と分類

サプライヤーの環境へのインパクトや依存を評価している場合、ポイントが付与されます。この場合の評価基準は、サプライヤー関連のスコープ3排出量をどのくらい生じているかに基づきます。それに加えて、回答企業は、環境への重大なインパクトおよび/または依存があるとされる閾値に達した1次サプライヤーの割合を評価している必要があります。

エンゲージメントの優先順位付け

- 優先順位付けの仕組みがある場合、組織は、気候変動に関連する重大な依存および/またはインパクトがあるサプライヤーを分類する基準に従って、優先順位を付けることが推奨されます。
- 優先順位付けの仕組みがない場合、組織は、既にすべてのサプライヤーに働きかけている場合にのみ、これが該当するケースであるべきだとしてスコアリングが推奨されます。

サプライヤーの環境要件

- 気候関連要件については、サプライヤーとの契約に気候関連要件が含まれていると、満点が与えられます。気候関連要件を満たす必要があるが、サプライヤーとの契約には含まれていない場合、または今後2年以内に導入する計画がある場合には、部分点が付与されます。今後2年以内に導入する

予定がない場合は、ポイントは付与されません。組織として、サプライヤーの不遵守に対応するための方針が整備されている場合は、追加ポイントが付与されます。

- 科学に基づく排出削減目標の設定が気候関連要件の一部である場合は、さらに加点されます。その他の関連する環境要件については、部分点が付与されます。開示された環境要件への遵守を監視する仕組みがあり、またサプライヤーの環境要件への不遵守への対応方針がある場合、追加ポイントが付与されます。

サプライヤーエンゲージメントの具体的内容

- 組織が働きかけているサプライヤーの数と、そのサプライヤーが組織の総支出またはスコープ3排出量に占める割合を回答している場合、ポイントが付与されます。
- サプライヤーエンゲージメント評価では、エンゲージメントの種類と、それに関連する支出またはスコープ3排出量の割合に基づきポイントが付与されます。エンゲージメントの種類は、成熟度によって判断され、以下の表のとおり、支出に応じて得点が左右されます。

支出またはスコープ3排出量	キャパシティビルディング	金銭的インセンティブ	情報収集	技術革新および協力
「なし」または「不明」	0/2	0/2	0/3	0/2
「1%未満」または「1-25%」または「26-50%」	1/2	1/2	1/3	1/2
「51-75%」または「76-99%」または「100%」	2/2	2/2	2/3	2/2

スコープ3排出量

質問：7.8、7.9

- 7.8 貴組織のスコープ3全世界総排出量を示すと同時に、除外項目について開示および説明してください。
- 7.9 報告した排出量に対する検証／保証の状況を回答してください。

背景・根拠：

企業のサプライチェーン上流におけるスコープ3排出量を回答することは、サプライチェーンにおける気候変動関連影響を測定する能力があることを示しています。

スコープ3データの第三者検証は、組織が正確なスコープ3排出量データを報告したことを示すものであり、組織のサプライチェーンにおける気候変動関連の影響を測定する能力があることを示しています。

スコアリング基準の概要：

スコープ3排出量

スコープ3排出量（企業活動の上流）の各カテゴリーについて評価し、回答したものについてポイントが付与されます。この質問の評価基準は、以下の一点を除き、CDP2025コーポレート完全版質問書の気候変動関連の質問におけるスコープ3排出量の採点基準と同様です。異なる点は、「購入した製品・サービス」のカテゴリーについて、「関連性あり、算定済み」を選択し、「報告年の排出量（CO2換算トン）」および「排出量算定方法」の両方の列が回答されている場合にのみ、満点が付与されることです。

スコープ3排出量の検証

スコープ3の排出量について、第三者による検証、または保証プロセスがある場合は、ポイントが付与されます。第三者による検証や保証が行われていない場合、または排出量データが提供されていない場合は、ポイントは付与されません。

リーダーシップレベルの採点基準を満たすスコープ3排出量の検証には、ポイントが付与されます。

目標

質問：7.53、7.53.1、7.53.2、7.54、7.54.2

- 7.53 報告年に有効な排出量目標がありましたか。
- 7.53.1 排出の総量目標とその目標に対する進捗状況の詳細を記入してください。
- 7.53.2 貴組織の排出原単位目標とその目標に対する進捗状況の詳細を記入してください。
- 7.54 報告年に有効なその他の気候関連目標がありましたか。
- 7.54.2 メタン削減目標を含むその他の気候関連目標の詳細をお答えください。

背景・根拠：

サプライヤーエンゲージメント目標とともに、企業のサプライチェーン上流におけるスコープ3の排出削減目標を設定している企業は、サプライチェーンにおける排出量に対する重要性を認識していることを示しています。

スコアリング基準の概要：

CDPコーポレート完全版質問書の気候変動関連の質問において、組織は、排出の総量目標（7.53.1）および原単位目標（7.53.2）について回答を求められます。これら2つの質問のスコアリングについては、注意すべき点が2つあります。

- 総量目標と原単位目標の両方の目標を報告している場合、すべての目標についてスコアリングし、その企業のサプライヤーエンゲージメント評価スコア算出において高評価となる質問の回答を採用します（総量目標に関する質問または原単位目標に関する質問のいずれか）。
- 気候変動対策を実施しなかった場合の「Business as usual」（BAU）シナリオに対して設定された目標は、加点の対象にはなりません。目標には、報告年と同じまたはそれ以前の基準年を設けなければなりません。

サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準の範囲内で、排出目標を報告しない企業は、関連セクションの加点の対象にはなりません。総量目標または原単位目標について、以下の通り回答している場合に、ポイントが付与されます。

- SBTiで承認された総量と原単位目標の両方にポイントが付与されます。または、CDPコーポレート完全版質問書でのリーダーシップレベルの採点基準を満たすスコープ3排出量の総量目標にポイントが付与されます。
- 「スコープ3：購入した製品・サービス」に関する総量または原単位目標を回答している場合、ポイントが付与されます。
- その他の企業活動の上流のカテゴリーについての総量または原単位目標を回答している場合、部分点が付与されます。

排出量目標やその他の気候関連目標がない企業は、このセクションの加点の対象にはなりません。

- 「サプライヤーとのエンゲージメント」における気候変動に関連する追加的な目標を回答している場合、ポイントが付与されます。

スコアアピール

回答組織が最終スコアまたはカテゴリースコアを確認した際に、回答がCDPのスコアリング基準に従って正しく評価されていない証拠がある場合、またはそれを示す証拠があると確信する場合は、スコアに関するアピールプロセスを開始することができます。

回答組織は、スコアリングカテゴリーまたは必須要件ごとにスコアアピールを提出できます。アピールには、スコアが間違っていることを裏付ける、客観的な証拠がなければなりません。アピールフォームの提出時に、可能な限り詳細な情報を提供してください。スコアに関する意見の相違に基づき、確かな証拠がないアピールは、無効とみなされます。

アピールプロセスでは、最初に質問書への回答提出時に開示された情報のみが考慮されます。アピールフォームの提出時に新たに提供された情報は考慮されません。また、アピールプロセス中に、スコアリング対象となる質問書の種類（コーポレート完全版またはSME版）を変更することはできません。

十分な証拠を示せる確信がある場合、回答組織は、CDPの担当者に連絡してスコアアピールのプロセスを開始できます。CDPの担当者がない場合は、[CDPヘルプセンター](#)よりお問い合わせください。

すべてのアピールについて、回答がスコアリング基準に従って正しく評価されているかどうかをCDPのスコアリングチームが審査します。CDPは、それぞれのスコアリングカテゴリーまたは必須要件に対し、次のいずれかのフィードバックを提供します。

- a) 回答がスコアリング基準に従って正しく評価されている詳細な理由

または

- b) 回答がスコアリング基準に従って正しく評価されなかった詳細な理由、および最終スコアまたはカテゴリースコアへの変更

CDPは、スコアアピール期間の終了後にのみ、アピールへの回答を行います。アピールを提出したすべての組織は、アピールの結果を同時に受け取ります。提出時期は関係ありません。最終的に受け付けるアピールの具体的な数が事前に予測できないため、フィードバックの提供日を確約することはできません。ただし、アピールの提出期間が終了した時点で、予想される処理時期が、アピールを提出したすべての組織に通知されます。

別段の通知がない限り、アピールプロセスにおいて下されたスコアに関するCDPの決定は最終的なものになります。CDPは、審査プロセスにおいて、アピールで示されたセクションだけではなく、アピールを提出した組織の回答全体のスコアリングを調査する権利を留保します。また、アピールプロセス中にスコアが上がる、または下がる可能性があることに注意してください。

スコアに関する免責事項

CDPスコアは、CDPへの回答内で情報開示された活動と内容に基づきます。このスコアは、組織の持続可能性や「グリーンさ」のレベルを総合的に評価する指標でも、環境フットプリントの具体的な指標でもなく、むしろ報告年度における環境課題に関するインパクトおよびそれらの課題による影響の評価と管理のために組織がとった対策のレベルを示すものです。

本年度のスコアがどのように付与されるかを回答組織に示すためにCDP2026スコアリング基準を発表しました。CDPは、最新のリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコア結果に基づいて、スコアリング期間前および期間中に質問の基準やウェイトを調整する権利を留保します。

フィードバックとお問い合わせ

スコアのフィードバックを受けたい場合、およびCDPのスコアリング基準に関する質問やご提案がある場合、並びに一般的な質問をされたい場合には、[CDPヘルプセンター](#)でナレッジ記事をご確認いただくか、マイサポートよりお問い合わせください。

よくある質問（FAQ）

サプライヤーエンゲージメント評価結果は公表されますか？

SEAスコアは、Aのスコアを獲得した場合を除き、非公開です。CDPウェブサイトやレポートなどで公表されることはありません。2026年は、評価結果は回答要請のあったキャピタルマーケット署名機関には公表されませんが、回答を提出した顧客企業には共有されます。

サプライヤーエンゲージメント評価を受けるためには、別の質問書に回答する必要がありますか？

いいえ。CDPコーポレート完全版質問書の、ガバナンス、事業戦略、目標、依存、インパクト、リスクおよび機会のプロセス、スコープ3排出量、スコープ3排出量（サプライヤーとのエンゲージメント）に関する質問に対する企業回答に基づき、サプライヤーとのエンゲージメント状況に関して評価を行います。サプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準は、CDPウェブサイトのガイダンスページより入手可能です。

サプライヤーエンゲージメント評価の対象となる企業はどの企業ですか？

CDPコーポレート完全版質問書に回答したすべての企業に対して、サプライヤーエンゲージメント評価を実施します。評価を受けるためには、回答期限内に回答を提出してください。SME版質問書に回答した企業は評価の対象にはなりません。

CDPコーポレート完全版質問書の気候変動に関する質問のスコアリング基準における、バリューチェーンエンゲージメントのカテゴリスコアと、サプライヤーエンゲージメント評価のスコアが異なる場合があるのはなぜですか？

CDP気候変動スコアとそのカテゴリー別スコアは、サプライヤーエンゲージメント評価と比較可能なものではありません。CDP気候変動スコアのバリューチェーンエンゲージメントセクションのスコアは、モジュール5の回答のみに基づいており、バリューチェーンの「上流」と「下流」両方のエンゲージメント活動にフォーカスしたものです。サプライヤーエンゲージメント評価では、モジュール5だけでなく、ガバナンス関連の回答やCDPスコアなどを考慮して、バリューチェーンの上流のみにフォーカスしています。

この違いはそれぞれのスコアの目的が異なるためです。バリューチェーンエンゲージメントセクションのカテゴリスコアは、CDPコーポレート完全版質問書のスコアリング基準（気候変動に関する質問）の多岐にわたる分野の一部で、「上流」「下流」のバリューチェーン戦略に特化しています。気候変動管理の全体的なアプローチに関して、ステークホルダーが活用し、ベンチマーク企業を評価するための幅広い指標の一部です。しかし、サプライヤーエンゲージメント評価は、サプライヤーとのエンゲージメントに関するリーダーシップ企業をハイライトし、企業が自社のサプライチェーンへの波及的なアクションの効果をベンチマークできるようにするために開発され、効果的にこの取り組みを波及させるためには企業の気候変動に対するアプローチを幅広く要素に入れる必要があります。

CDP気候変動スコアは企業に対してサプライヤーとのエンゲージメントの成果を伝達可能なスコアを提供しておらず、そのため、企業がサプライチェーンの排出削減に具体的に取り組んでいる対策を認識できるよう

になっていません。そのためにSEAは作成されました。多くの企業はまだ自社の直接的な操業を超えた範囲の対策を取っておらず、そのためSEAリーダーを特定する方法論はより簡素です。しかし、他のCDPの方法論と同様に、ユーザーのニーズに応え、適切な企業行動を促進するため、今後SEAのスコアリング基準を修正・強化していく予定です。

サプライヤーエンゲージメント評価は、金融機関においてはどのような扱いになりますか？

サプライヤーエンゲージメント評価は、サプライヤーとのエンゲージメントに関連付けて、企業回答の主要領域に焦点を当てています。開示要請に応じてCDPコーポレート完全版質問書の気候変動に関する質問に回答したすべての組織が評価の対象となり、金融機関もその対象に含まれます。環境情報を開示するすべての企業にとって、サプライヤーエンゲージメントは重要な領域ですが、金融機関の最も重要なエンゲージメントは、投資先企業およびクライアントとのポートフォリオを介した協働であり、これは、サプライヤーに焦点を当てたサプライヤーエンゲージメント評価のスコアリング基準では把握できないことにご注意ください。